

富良野線(富良野～旭川間)
第2期事業計画(アクションプラン)

富良野線（富良野～旭川間）第2期事業計画（アクションプラン）

－ 目 次 －

●序章	・・・・・・・・・・	1 ページ
(1) はじめに		
(2) 策定経緯		
●第1章 第1期事業計画（アクションプラン）の検証について	・・・・・・・・・・	2 ページ
●第2章 基本的事項	・・・・・・・・・・	2 ページ
(1) 位置づけ		
(2) 推進母体		
●第3章 富良野線のおかれた状況	・・・・・・・・・・	3～4 ページ
(1) 関係市町村の状況		
(2) 富良野線の状況		
(3) これまでの協議状況		
●第4章 取組方針	・・・・・・・・・・	4～5 ページ
(1) 目的		
(2) 基本指標		
●第5章 具体的取組内容	・・・・・・・・・・	5～6 ページ
(1) 基本方針		
(2) 具体的取組内容		
●第6章 今後の進め方	・・・・・・・・・・	7 ページ
●別冊 第1期計画1年目報告書		
●別添資料		

序章（はじめに）

(1) はじめに

この計画は、富良野線（富良野～旭川間）を維持・活性化するため、3年間でJ R北海道と地域の関係者が一体となって取り組む内容を事業計画（アクションプラン）としてまとめたものである。

(2) 策定経緯

- 厳しい経営状況におかれたJ R北海道は、平成28（2016）年11月に単独では維持困難な線区を公表して、地域関係者と協議を行ってきた。
- このような中、平成30（2018）年7月国土交通省は、J R北海道に対し、「J R北海道の経営改善に向けた取組」を着実に進めるよう監督命令を発出した。
- 監督命令に基づき、令和元（2019）年度及び令和2（2020）年度を「第1期集中改革期間」とし、J R北海道と地域関係者が一体となって、利用促進やコスト削減などに取り組むとともに、持続的な鉄道網の確立に向け徹底的な検討を行うため、事業計画（以下「第1期事業計画（アクションプラン）」という。）を策定した。
- 令和2（2020）年8月5日、J R北海道と地域関係者は、第1期事業計画（アクションプラン）1年目の検証結果を国土交通省へ報告し、着実に取組が行われていることが確認された。
- 令和2（2020）年12月12日、J R北海道と地域関係者は、第1期事業計画（アクションプラン）2年目第2四半期までの取り組み状況を国土交通省へ報告した。
- こうした取り組みを踏まえ、令和3年（2021）年度から令和5（2023）年度までの「第2期集中改革期間」に取り組む事業計画（以下「第2期事業計画（アクションプラン）」という。）を策定することとした。

第1章 第1期事業計画（アクションプラン）の検証について

監督命令に基づき、J R北海道と地域の関係者は、第1期事業計画（アクションプラン）1年目の検証を行った。なお、報告書は別冊のとおりである。2年目の検証は令和3（2021）年度に行う。

第2章 基本的事項

(1) 位置づけ

- 第2期事業計画（アクションプラン）は、J R北海道の徹底した経営努力を前提として、鉄道を持続的に維持する仕組みを構築するために、監督命令を受けたJ R北海道と地域の関係者が協力しながら、「監督命令」で命じられた「第2期集中改革期間」の3年間に具体的に取り組む内容を記載したものである。
- 将来に向けて線区の持続性を確保するため、この計画を共に取り組むことを通して、J R北海道と地域の関係者が一体となって取り組む気運を醸成する。
- J R北海道と地域の関係者は、取組の結果を毎年度検証し、最終年度（令和5（2023）年度）には総括的な検証も行う。

(2) 推進母体

- J R北海道を代表とする委員会を第1期事業計画（アクションプラン）に引き続き設置し、地域の関係者の協力を得ながら取り組む。
- このため、第2期事業計画（アクションプラン）の推進を目的とする「富良野線アクションプラン実行委員会」（以下「委員会」という。）及び事務レベルの「幹事会」を第1期事業計画（アクションプラン）に引き続き設置する。

※ 富良野線アクションプラン実行委員会及び幹事会について

- ① 取組主体 J R北海道（委員会事務局）
- ② 関係者
 - 富良野線沿線自治体の首長（委員会）、担当者（幹事会）
 - ・ 沿線市町村（駅のある市町村）
旭川市、美瑛町、上富良野町、中富良野町、富良野市
 - 広域行政機関
 - ・ 北海道
 - オブザーバー
 - ・ 国土交通省

第3章 富良野線のおかれた状況

(1) 関係市町村の状況

- 別添資料 1～3 ページのとおり

(2) 富良野線の状況

- 別添資料 4～18 ページのとおり

(3) これまでの協議状況

- 平成28(2016)年11月18日JR北海道が「当社単独では維持困難な線区」を公表した後、関係者の中で、富良野線における持続的な鉄道網のあり方について議論が行われてきた。
- JR北海道は、富良野線を維持していきたいと考えているものの、単独では維持することが困難な状況にあることから、持続可能な交通体系のあり方について地域の皆様に問題提起を行った。
- 平成29(2017)年5月にはJR富良野線連絡会議が設置され、利用促進などに取り組んでいることや地域における富良野線の維持存続に向けた協議が進められている。
- 北海道は、「鉄道ネットワーク・ワーキングチーム・フォローアップ会議」を開催し、地域での議論を踏まえて「北海道の将来を見据えた鉄道網（維持困難線区）のあり方について」をとりまとめるとともに、平成30(2018)年3月にはこれを踏まえて「北海道交通政策総合指針」を策定した。
- これらの中では、富良野線は次のとおり位置づけられた。

① 富良野線の現状

- 富良野、美瑛、旭山動物園などの観光資源を有する路線である。
- 沿線地域は国の広域観光周遊ルートに指定されており、今後、インバウンド等による交流人口の飛躍的な拡大に向け、重要な役割を果たすことが期待される。
- JR北海道が単独では維持困難とされる路線の中で最大の輸送密度となっており、通学や通院等においても、多くの利用がある。

② 富良野線のあり方について

- 観光客の利用だけで鉄道を維持していくことは難しいことから、関係機関が一体となって、観光路線としての特性を更に発揮するよう取組を行うとともに、地域における負担等も含めた検討・協議を進めながら、路線の維持に最大限努めていく。

- 平成 30（2018）年 7 月 27 日には、国土交通省から J R 北海道に対して「J R 北海道の経営改善について」監督命令が発出され、J R 北海道の経営改善に向けた取組を前提として鉄道を持続的に維持する仕組みの構築が必要な線区に対する方針が示された。
- 監督命令は、J R 北海道に対し、「維持する仕組み」を構築していくための前提として、令和元（2019）年度及び令和 2（2020）年度を「第 1 期集中改革期間」として、当社と地域の関係者が一体となって、利用促進や経費節減等に取り組み、持続的な鉄道網の確立に向け、2 次交通を含めたあるべき交通体系について、徹底的に検討を行うことを命じた。
- J R 北海道は、地域の関係者のご理解とご協力を得ながら、第 1 期事業計画（アクションプラン）を策定し、利用促進と経費節減等に取り組み、四半期毎に進捗状況の確認などを行った。
- 監督命令は、「第 1 期集中改革期間」の検証を行い、着実な取組が行われていることを前提として、令和 3（2021）年度から令和 5（2023）年度までの「第 2 期集中改革期間」に移行するとともに、「第 1 期集中改革期間」の検証結果を「第 2 期集中改革期間」における取組に反映させることを命じている。
- J R 北海道は、監督命令を厳粛に受けとめ、北海道交通政策総合指針を尊重する所存であり、富良野線を維持するため、地域の関係者のご理解とご協力を得ながら、「第 2 期集中改革期間」の取組を第 2 期事業計画（アクションプラン）として策定し履行する。

第 4 章 取組方針

- J R 北海道は、徹底した経営努力を前提として、鉄道を持続的に維持する仕組みの構築を行うために、地域の関係者のご協力を得ながら、地域の関係者と一体となり、利用促進、経費節減などの取組を進める。
- 監督命令に基づき事業の抜本的な改善方策の検討に向け、J R 北海道と地域の関係者は、最終年度（令和 5（2023）年度）には総括的な検証を行う。

(1) 目的

- 富良野線を持続的に維持していくためには、富良野線の収入を増やし経費を節減することが必要不可欠である。
- このため、J R 北海道と地域の関係者は、この計画を進めることにより、収支改善に資する具体的な取組を進める。

※ なお、収支改善については、この計画による具体的取組以外にも長期的な利用者の減少傾向や設備投資による減価償却費の増減など、様々な変動要素について分析し、状況を把握することとする。

(2) 基本指標

○ 第1期計画開始前の基本指標は次のとおりである。基本指標とあわせ関連指標の推移も確認しながら進める。

① 収支状況（富良野～旭川間）

平成 29（2017）年度（第1期計画開始前） △998 百万円
（営業収益 401 百万円、営業費用 1,399 百万円）

② 輸送密度（富良野～旭川間）

昭和 62（1987）年度（国鉄分割民営時） 2,056 人/日
平成 29（2017）年度（第1期計画開始前） 1,597 人/日

※ 関連指標

駅別乗車人員、列車別乗車人員、駅間別乗車人員、駅間通過人員、定期券発売枚数 等

○ 富良野線の基本指標について、長期減少傾向、新型コロナウイルスの影響がある中でも、第1期計画開始前（平成 29（2017）年度）と同水準を維持したいと考え、最終年度（令和 5（2023）年度）の目標とする。検証の際は、以下の基本指標とともに、駅間輸送人員や発売実績などの関連指標も参考とする。

① 収支状況（目標）

令和 5（2023）年度（第2期計画終了時期） △998 百万円

② 輸送密度（目標）

令和 5（2023）年度（第2期計画終了時期） 1,597 人/日

第5章 具体的取組内容

(1) 基本方針

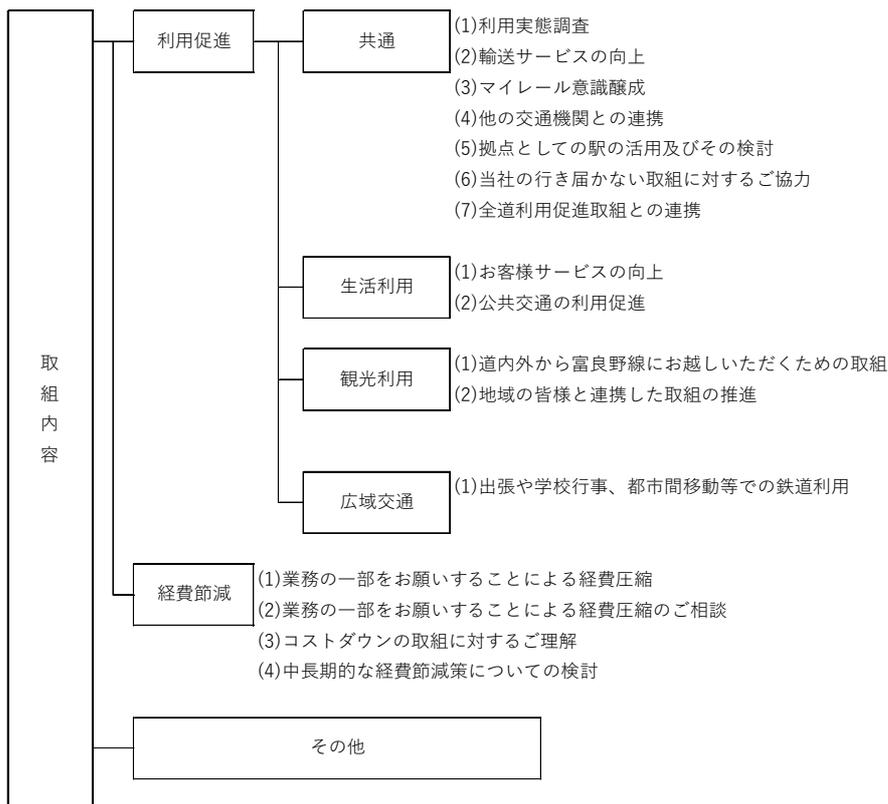
○ 富良野線の収入を増やし、経費を節減するにあたって、利用促進策、経費節減策について、具体的な検討や取り組みを行う。

○ 日常の生活利用の観点から、地域住民の皆様へのマイレール意識の醸成を進める。

○ 日常の生活利用のほか、観光利用の観点においても欠かすことのできない重要な路線であり、更なる利用者の増加を目指し、インバウンド対策や地元住民への近場観光の提案、閑散期対策などを強化する。

(2) 具体的取組内容

- 取組内容の構成は以下のとおり。また、具体的取組は別紙のとおりである。
 - ・ 「利用促進」「経費節減」の二つの観点から整理する。
 - ・ 「利用促進」については、ご利用形態に即して「共通」「生活利用」「観光利用」「広域交通」に分類して整理する。
 - ・ それぞれの取組内容について事業主体と具体的な取組内容を記述する。



第6章 今後の進め方

- 第2期事業計画（アクションプラン）は、JR北海道と地域の関係者が一体となって取り組む。
- P D C Aサイクルに基づき必要な見直しを行いながら進める。具体的には、基本指標、関連指標や計画に盛り込まれた取組内容に基づき、利用促進や経費節減に向けた取組の実施結果、指標の推移状況について、委員会・幹事会において状況報告・意見交換や取組状況の検証を行う。
- こうした状況報告・意見交換や取組状況の検証を踏まえ、必要に応じて第2期事業計画（アクションプラン）の見直しを行うとともに、基本指標についても年度実績をもとに必要により見直しを検討する。
- 「第2期集中改革期間」の最終年度（令和5（2023）年度）には総括的な検証を行う。

		第1期	第2期集中改革期間												令和6 (2024) 年度
		令和2 (2020) 年度	令和3(2021) 年度				令和4(2022) 年度				令和5(2023) 年度				
		IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	
P	事業計画完成・公表	●													
D	取組の実施		←—————→												
	状況報告・意見交換		・	・	・	・									
C	取組状況の検証(令和3(2021)年度)		・	・	・	●									
A/P	必要な見直し		・	・	・	●									
D	取組の実施						←—————→								
	状況報告・意見交換						・	・	・	・					
C	取組状況の検証(令和4(2022)年度)						・	・	・	●					
A/P	必要な見直し						・	・	・	●					
D	取組の実施										←—————→				
	状況報告・意見交換										・	・	・	・	
C	取組状況の検証(令和5(2023)年度)										・	・	・	●	
C	総括的な検証										・	・	・	●	
A	持続可能な交通体系														—————→

●：実行委員会、・：幹事会

P (P L A N)：計画（目標及び計画の策定）

D (D O)：実行（取組の実施）

C (C H E C K)：点検・評価（取組状況や効果の把握・評価（実行委員会での意見を踏まえ改善する））

A (A C T I O N)：見直し（取組の改善・見直し（年度毎に利用促進策やコスト削減策等を見直す））

富良野線 具体的取組

I. 利用促進

1.共通

取組内容		事業主体	スケジュール							
			令和3(2021)年度		令和4(2022)年度		令和5(2023)年度			
			上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(1) 利用実態調査	①統計値では把握しがたいお客様の層等を把握するための実態調査実施	JR北海道 全自治体								
(2) 輸送サービスの向上	①限りある車両でどのようなダイヤがよいか、地域の皆様と意見交換を実施	自治体 JR北海道								
(3) マイレール意識醸成	①通勤の際の鉄道を含めた公共交通利用促進	自治体 その他								
	②リーフレットの作成 線区の状況、利用のお願い、集中改革期間の内容等について利用者にご理解いただく資料の作成	JR北海道								
	③鉄道施設見学会などの際にJR社員から線区に関する説明の実施	自治体 JR北海道								
	④公共交通機関利用の呼びかけ ア. 広報誌等による鉄道利用の呼びかけ	全自治体								
	イ. イベント実施時のJR利用促進PR会場でのチラシ配布	自治体								
	ウ. 鉄道施設見学ツアー実施	全自治体 JR北海道								
	エ. 地域住民向け特典付き沿線観光マップの作成・配布の継続	全自治体 その他								
	オ. ご当地キャラクターによる公共交通利用の呼びかけ・公共交通ご当地キャラクターイベントパンフレット等への掲載、グッズの作成・配布	全自治体 その他								
カ. 利用促進パネル展の実施	自治体									

取組内容		事業主体	スケジュール							
			令和3(2021)年度		令和4(2022)年度		令和5(2023)年度			
			上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(4) 他の交通機関等との連携	①バス等との相互連携のため勉強会の実施 ・ダイヤ改正時のダイヤの相互連絡	自治体 JR北海道 その他								
	②イベント時の駅からの無料シャトルバスの運行	自治体								
(5) 拠点としての駅の活用及びその検討	①観光案内所設置	自治体								
	②駅前の整備 ・駅前広場での乗り継ぎ環境向上、案内強化の継続	自治体 JR北海道								
	③駅前広場駐車場との連携による利用環境の向上	自治体 JR北海道								
	④駅の活用 ・待合環境の向上	自治体 JR北海道 その他								
	⑤駅舎の整備 ・駅舎バリアフリーにむけた検討協議	自治体								
(6) 当社の行き届かない取組に対するご協力	①外国人への通訳対応	自治体								
(7) 全道利用促進取組との連携	①北海道鉄道活性化協議会との連携	全自治体 JR北海道								

2.生活利用

取組内容		事業主体	スケジュール					
			令和3(2021)年度		令和4(2022)年度		令和5(2023)年度	
			上期	下期	上期	下期	上期	下期
(1) お客様サービスの向上	①大規模輸送障害発生時の運行情報等の内容充実	JR北海道						
(2) 公共交通の利用促進	①行事等での鉄道利用を呼びかけ ・幼稚園、学校行事、自治会行事等	自治体						
	②鉄道利用促進のための補助制度等の検討および導入 ア.通学定期への補助 イ.JR乗車運賃等への助成	自治体						

3. 観光利用

取組内容	事業主体	スケジュール								
		令和3(2021)年度		令和4(2022)年度		令和5(2023)年度				
		上期	下期	上期	下期	上期	下期			
(1) 道内外から富良野線にお越しいただくための取組	①商品造成やキャンペーンの実施 ・富良野・美瑛キャンペーンの実施 ・観光列車の運行 ・航空会社と連携した利用促進	全自治体 JR北海道 その他								
	②閑散期の需要創出 ・フリーパス等を活用した富良野線利用促進の取組	JR北海道								
	③宣伝協力 ・駅等での宣伝協力	自治体 JR北海道 その他								
	④富良野線「音声ガイド」GPSアプリの実施	JR北海道								
(2) 地域の皆様と連携した取組の推進	①沿線や周辺地域にお住まいの皆様を対象としたお出かけを呼びかけ									
	ア. ヘルシーウオーキングの実施	自治体 JR北海道 その他								
	イ. ご当地キャラクターによるイベントの実施	全自治体 JR北海道								
	②地域のお祭りやイベント等を活用した鉄道利用促進 ・駅舎内及び駅前広場のイベント活用による賑わいの創出	自治体 JR北海道 その他								
	③観光資源の積極的な活用									
	ア. 鉄道フォト・鉄道動画コンテストの実施	全自治体 JR北海道								
	イ. 鉄道写生コンクールの実施	全自治体 JR北海道								
	ウ. 特典付き沿線観光マップの作成・配布の実施	全自治体 その他								
	エ. JR路線案内も含めた観光案内の実施	自治体								

取組内容		事業主体	スケジュール							
			令和3(2021)年度		令和4(2022)年度		令和5(2023)年度			
			上期	下期	上期	下期	上期	下期		
	オ. 新聞広告等を活用した鉄道利用のPR	自治体								
	カ. 鉄道利用のPRポスター・パンフレット作成・配布	自治体								
	④町イベント等のポスターを駅舎に掲示	自治体 JR北海道								
	⑤サイクリング観光客への鉄道利用PR	自治体 その他								

4. 広域交通

取組内容		事業主体	スケジュール							
			令和3(2021)年度		令和4(2022)年度		令和5(2023)年度			
			上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(1) 出張や学校行事、都市間移動等での鉄道利用	①官公庁、域内事業所等による出張等での鉄道利用の促進	全自治体								
	②学校行事等での鉄道利用促進	自治体								

Ⅱ. 経費節減

取組内容		事業主体	スケジュール							
			令和3(2021)年度		令和4(2022)年度		令和5(2023)年度			
			上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(1) 業務の一部をお願いすることによる経費圧縮	①無人駅の管理 地域自治会等が管理している駅待合の管理の継続	自治体								
(2) 業務の一部をお願いすることによる経費圧縮のご相談	①業務委託のご相談	全自治体 JR北海道 その他								
	②業務のお手伝いをお願い	全自治体 JR北海道 その他								
	③当社の行き届かない取組に対するご協力	全自治体 JR北海道 その他								
(3) コストダウンの取組に対するご理解	①ご利用の少ない駅の見直し	自治体 JR北海道								
	②ご利用の少ない踏切の見直し	全自治体 JR北海道								
(4) 中長期的な経費節減策についての検討	①中長期的な視点に立った設備スリム化の可能性について検討	全自治体 JR北海道								

Ⅲ. その他

取組内容		事業主体	スケジュール							
			令和3(2021)年度		令和4(2022)年度		令和5(2023)年度			
			上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(1) あるべき交通体系について徹底的な検討	①あるべき交通体系について地域の皆様と検討	全自治体 JR北海道 その他								
	②2次交通との連携に向けた検討	自治体 JR北海道 その他								

アクションプラン
第1期計画1年目報告書
(令和元年度)
富良野線

令和2年8月

富良野線アクションプラン実行委員会

1. はじめに

- **本報告書は、平成31年4月9日に公表されたアクションプラン第1期計画1年目の取組状況について、富良野線アクションプラン実行委員会が検証を行い、その結果を取りまとめたものである。**
- **1年目の検証結果を踏まえた上で、2年目の主要施策やK P I指標について必要な見直しを行い、より効果的な対応を検討していく。**

2. 基本指標・関連指標の検証

○ 基本指標の概況

- ・ 線区別収支は▲1,015百万円となり、基準とした平成29年度より17百万円悪化した。営業収益は373百万円（前年比▲1百万円、100%）、営業費用は1,388百万円（前年比▲51百万円、96%）となった。
- ・ 輸送密度は1,419人/日となり、基準とした平成29年度より178人/日減少した。

▼令和元年度基本指標の収支状況

項目	平成29年度 (基準)	令和2年度 (目標)	令和元年度 (実績)	目標 達成	備考
線区別収支	▲998百万円	▲998百万円	▲1,015百万円	未達成	
輸送密度	1,597人/日	1,597人/日	1,419人/日	未達成	

3. 具体的取組の検証

○ 進捗状況

- ・アクションプランの具体的取組にあたっては、地域の皆様のご理解とご協力をいただきながら進め、進捗状況は目標達成「◎」が8% 達成見込み「○」が83%、一部達成「△」が2%、見込無「×」が0%、未評価「—」が8%となった。
- ・具体的取組、検証結果等の詳細は別紙を参照。

▼令和元年度アクションプラン進捗状況

進捗状況	件数	割合	コメント
◎	4	8%	「地域住民向け沿線観光マップの作成・配布の実施」「利用促進パネル展の実施」の取組において令和元年度中に目標達成。
○	43	83%	地域の皆様のご協力により項目の8割が一年目の目標達成。
△	1	2%	富良野・美瑛ノロッコ号と富良野美瑛号の利用が目標達成に至らなかった。2年目は、富良野線全線開通120周年企画などで目標達成を目指す。
×	0	0%	—
—	4	8%	「業務の一部をお願いすることによる経費圧縮のご相談」の項目で一部未評価がある。
合計	52	100%	

4. 令和元年度象徴的な取組について①

取組内容	取組状況		目標達成
(1) 鉄道施設見学ツアー実施	<p>7月27日（土）、旭川市が小学生の親子を対象とした「JRこども見学ツアー」を実施しました。一行約20名が旭川駅と旭川運転所を見学しました。</p>	 <p>(令和元年7月27日撮影・旭川運転所)</p>	○
(2) 富良野線120周年関連イベントの実施	<p>9月1日、地元有志の皆様が主催し、開駅120周年イベントを開催しました。沿線の郷土太鼓によるライブや沿線の物産品を集めた駅マルシェのほか、美瑛駅の歴史を振り返るトークライブが行われ、駅の記念日を祝いました。</p>	 <p>(令和元年9月1日撮影・美瑛駅)</p>	○

4. 令和元年度度象徴的な取組について②

取組内容	取組状況	目標達成
<p>(3) ご当地キャラクターによる公共交通利用の呼びかけ</p>	<p>10月14日（月・祝）、富良野線乗車イベント「鉄道でGO」を開催しました。沿線の5駅でご当地キャラクター（旭川市、美瑛町、上富良野町、中富良野町、富良野市）から渡された指令書を基に、列車に乗ってミッションをクリアするとプレゼントがもらえる企画に143名が参加しました。</p>	 <p>(令和元年10月14日撮影・旭川駅)</p>
<p>(4) 観光案内所の設置</p>	<p>富良野・美瑛キャンペーンにあわせ、上富良野駅に「かみふらの十勝岳観光協会」が中富良野駅には「中富良野観光協会」が観光案内所を設置し外国語通訳スタッフを配置しました。 富良野・美瑛ノロッコ号のお客様などに地域の魅力をご案内しました。</p>	 <p>(令和元年6月撮影・上富良野駅)</p>

4. 令和元年度象徴的な取組について③

取組内容	取組状況	目標達成	
<p>(5) 鉄道関係講演会・フォーラムの実施</p>	<p>11月12日（火）、旭川市で鉄道維持に関するフォーラム「鉄道利用フォーラム～乗って発見！鉄道の魅力～」を開催しました。市内外から約200名が参加し、富良野線などの維持に向けてすべきこと、鉄道の利用促進などを討議しました。</p>	 <p>(令和元年11月12日撮影・旭川市内)</p>	○
<p>(6) 富良野・美瑛キャンペーンの実施</p>	<p>JR北海道では富良野線沿線を美しく彩る季節の花々やパッチワークの風景をお客様にお楽しみいただくため、6月から「富良野・美瑛キャンペーン」を展開した。毎年恒例となっている臨時駅「ラベンダー畑駅」の設置のほか、本年は富良野・美瑛ノロッコ号で新しいデザインの機関車が運転するなど、富良野線の利用促進に取組みました。</p>	 <p>(令和元年6月撮影・旭川駅)</p>	○

5. 令和元年度取組の検証

- ・ JR北海道と沿線自治体等が一体となってアクションプランに取組み、効果をおげることができた。
- ・ 基本指標に定めた線別収支・輸送密度では、「富良野・美瑛ノロッコ号」をご利用のインバウンド旅客の減少等により目標に至らなかった。
- ・ マイレール意識醸成を図るべく、シンポジウム開催や鉄道施設見学ツアー等を実施して鉄道に親しんでいただく取組みを実施して、地域の皆様の関心を高めた。
- ・ 「富良野・美瑛ノロッコ号」のご利用が低調だったことから、令和2年度は富良野線全線開通120周年企画をはじめとして、同列車のご利用促進を含めた取組みを進める。
- ・ 経費節減の取組は、具体的な事例に関する協議開始には至っていないため、今後進捗させる。

富良野線 具体的取組

I 利用促進

1.共通

取組内容	事業主体	目標達成 (第4四半期)	スケジュール										
			H29		H30		R1		R2				
			上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期			
(1) 利用実態調査	①統計値では把握しがたいお客様の層等を把握するための実態調査の新設	JR北海道 全自治体	○										
(2) 輸送サービスの向上	①限りある車両でどのようなダイヤがよいか、地域の皆様と意見交換を実施	自治体 JR北海道	○										
(3) マイレール意識醸成	①通勤の際の鉄道利用の呼びかけ	自治体 その他	○										
	②地元住民との懇談会・シンポジウム・意見交換会等の実施	全自治体 JR北海道	○										
	③リーフレットの作成 線区の状況、利用のお願い、集中改革期間の内容等について利用者にご理解いただく資料の作成	JR北海道	○										
	④鉄道施設見学会などの際にJR社員から線区に関する説明の実施	JR北海道 自治体	○										
	⑤公共交通機関利用の呼びかけ												
	ア. 広報誌等による鉄道利用の呼びかけ	全自治体	○										
	イ. イベント実施時の鉄道利用促進PR 会場でのチラシ配布	自治体	○										
	ウ. 鉄道施設見学ツアー実施	全自治体 JR北海道	○										
	エ. 地域住民向け沿線観光マップの作成・配布の実施	全自治体	◎										
	オ. ご当地キャラクターによる公共交通利用の呼びかけ	自治体	○										
カ. 利用促進パネル展の実施 (追加)	自治体	◎											

1.共通

取組内容	事業主体	目標達成 (第4四半期)	スケジュール										
			H29		H30		R1		R2				
			上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期			
(4) 他の交通機関等との連携	①バス等との相互連携のための勉強会の実施 ・ダイヤ改正時のダイヤの相互連絡	自治体 JR北海道 その他	○										
	②イベント時の駅からの無料シャトルバスの運行	自治体	○										
(5) 拠点としての駅の活用	①観光案内所設置	自治体	○										
	②駅前の乗り継ぎ環境の向上	自治体 その他	○										
	③駅前広場駐車場との連携による利用環境の向上	自治体 JR北海道	○										
	④駅内スペースの活用 ・駅舎の待合環境の向上	自治体 JR北海道 その他	○										
(6) 当社の行き届かない取組に対するご協力	①外国人への通訳対応	自治体	○										
(7) 全道利用促進取組との連携	①北海道鉄道活性化協議会との連携												
	ア. 公共交通の利用促進に向けた道民運動の展開	北海道 JR北海道 全自治体	○										
	イ. 鉄道利用者の拡大 (追加)	北海道 JR北海道 全自治体	○										
	ウ. 道外、海外観光客の利用拡大 (追加)	北海道 JR北海道 全自治体	○										
	エ. 本道の鉄道網の重要性に関する国民的理解、 応援機運の醸成 (追加)	北海道 JR北海道 全自治体	○										

2.生活利用

取組内容	事業主体	目標達成 (第4四半期)	スケジュール										
			H29		H30		R1		R2				
			上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期			
(1) お客様サービスの向上	①大規模輸送障害発生時の運休等情報内容の充実	JR北海道	○										
(2) 公共交通の利用促進	①行事等での鉄道利用の呼びかけ	自治体	○										
	②鉄道利用促進のための補助制度等の検討および導入	自治体	○										

3. 観光利用

取組内容	事業主体	目標達成 (第4四半期)	スケジュール										
			H29		H30		R1		R2				
			上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期			
(1) 道内外から富良野線にお越し いただくための取組	①商品造成やキャンペーンの実施 ・富良野・美瑛キャンペーンの実施 ・観光列車の運行 等	JR北海道	△										
	②閑散期の需要創出 ・フリーパス等を活用した富良野線利用促進の取組	JR北海道 その他	○										
	③宣伝協力 ・駅等での宣伝協力	JR北海道 自治体 その他	○										
	④富良野線「音声ガイド」GPSアプリの実施	JR北海道	○										
(2) 地域の皆様と連携した取組の推進	①沿線や周辺地域にお住まいの皆様を対象とした お出かけの呼びかけ												
	ア. ヘルシーウォーキングの実施	自治体 JR北海道 その他	○										
	イ. ご当地キャラクターによる乗車イベントの実施	全自治体 JR北海道	○										
	ウ. 鉄道施設を利用した乗車イベントの実施	自治体	○										
	②地域のお祭りやイベント等を活用した鉄道利用促進												
	ア. 駅舎内及び駅前広場のイベント活用による賑わいの創出	自治体 JR北海道 その他	○										
	③観光資源の積極的な活用												
	ア. フォトコンテスト、写真コンクールの実施	全自治体 JR北海道	○										
	イ. JR路線案内も含めた観光案内の実施	自治体	○										
	ウ. 新聞広告を活用した鉄道利用のPR (追加)	自治体	◎										
	エ. 鉄道利用のPRポスター・パンフレット作成 (追加)	自治体	◎										
	④町イベント等のポスターを駅舎に掲示	自治体 JR北海道	○										
	⑤サイクリング観光客への鉄道利用PR	自治体 その他	○										
	⑥富良野線120周年関連イベントの実施	JR北海道 自治体	○										

4. 広域交通

取組内容	事業主体	目標達成 (第4四半期)	スケジュール								
			H29		H30		R1		R2		
			上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	
(1) 出張や学校行事、都市間移動等での鉄道利用	①官公庁、域内事業所等による出張等での鉄道利用の促進	自治体	○								
	②学校行事等での鉄道利用の呼びかけ	自治体	○								

経費節減

取組内容	事業主体	目標達成 (第4四半期)	スケジュール								
			H29		H30		R1		R2		
			上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	
(1) 業務の一部をお願いすることによる経費圧縮	①無人駅の管理 地域自治会等が管理している駅待合の管理の継続	自治体	○								
(2) コストダウンの取組に対するご理解	①ご利用の少ない踏切の見直しについての各自治体との協議	自治体 JR北海道	○								

第2期集中改革期間に向けた取組内容の検討

取組内容	事業主体	目標達成 (第4四半期)	スケジュール								
			H29		H30		R1		R2		
			上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	
(1) あるべき交通体系について徹底的な検討	①あるべき交通体系について地域の皆様と検討の開始	全自治体 JR北海道 その他	○								
	②2次交通との連携に向けた検討	自治体 JR北海道 その他	○								
(2) 拠点としての駅の活用	①駅舎の整備 ア. 駅舎バリアフリーにむけた検討協議	自治体	○								
(3) 業務の一部をお願いすることによる経費圧縮のご相談	①業務委託のご相談	全自治体 JR北海道 その他	—								
	②業務のお手伝いをお願い	全自治体 JR北海道 その他	—								
	③当社の行き届かない取組に対するご協力	全自治体 JR北海道 その他	—								
(4) 中長期的な経費節減策についての検討	①中長期的な視点に立った設備スリム化の可能性について検討	全自治体 JR北海道	—								

【別添資料】

(1) 関係市町村の状況

①総人口の推移[年齢別]	1ページ
②市町村別人口の推移	2ページ
③市町村別通学年齢人口(15～19歳)の推移	3ページ

(2) 富良野線(富良野・旭川間)の状況

①沿線地図	4ページ
②沿革	5ページ
③諸元	5ページ
④ご利用状況の推移(輸送密度の推移)	6ページ
⑤定期列車本数の推移	7ページ
⑥駅別乗車人員	8ページ
⑦列車別乗車人員	9～10ページ
⑧駅間別乗車人員	11ページ
⑨駅間通過人員	12ページ
⑩定期券発売枚数	13ページ
⑪線区別収支	14ページ
⑫土木構造物の現況、土木構造物の大規模修繕・更新費用	15～17ページ
⑬車両の更新費用	18ページ

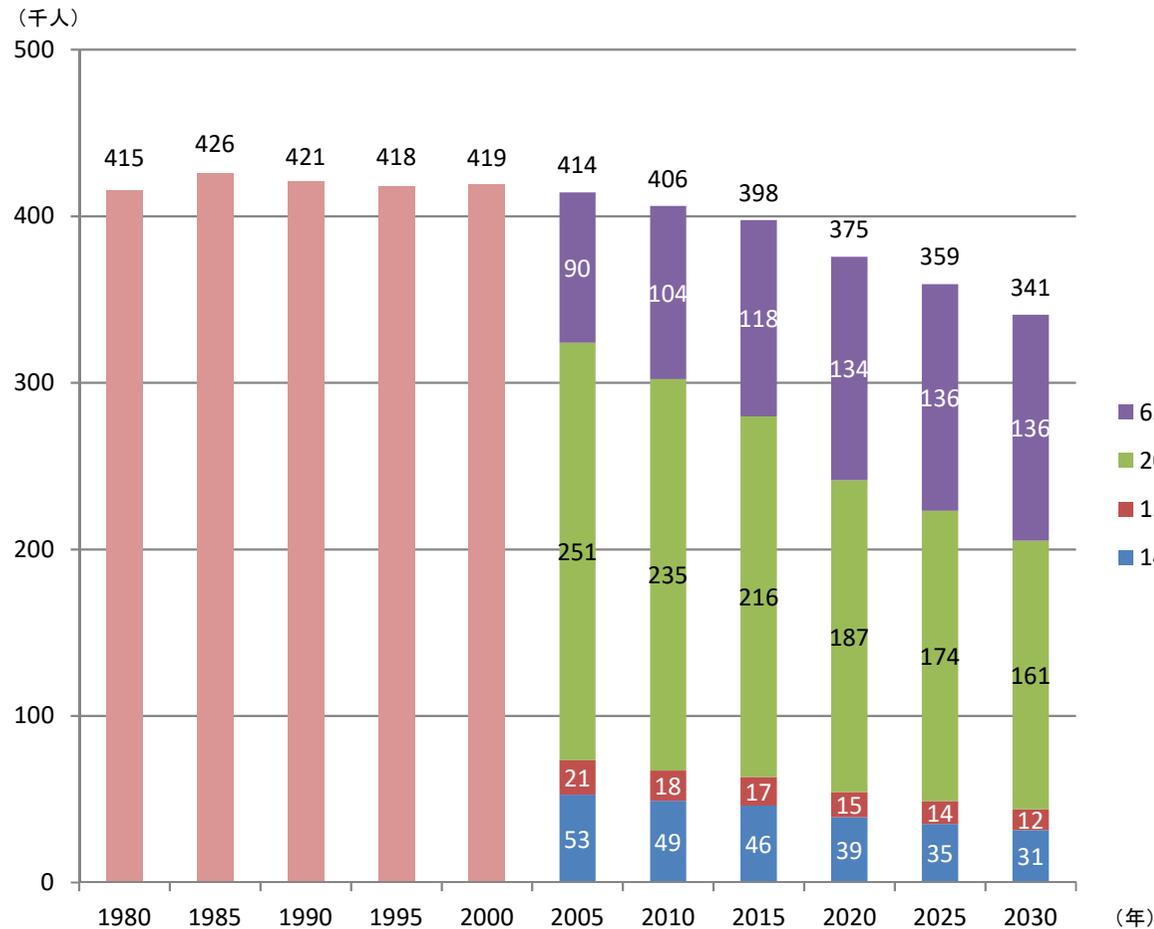
注)

各データとも令和元年度

- ④輸送密度 : ご利用されるお客様の1日1kmあたりの平均人数
- ⑥駅別乗車人員 : 特定日の調査における、実際にご乗車されたお客様の駅ごとの人数(直近5年間の平均)
- ⑦列車別乗車人員 : 特定日の調査における、実際にご乗車されたお客様の列車ごとの人数
- ⑧駅間別乗車人員 : 特定日の調査における、実際にご乗車されたお客様の駅間ごとの人数
- ⑨駅間通過人員 : きっぷの発売状況に基づく、1日あたりのお客様の駅間ごとの人数
- ⑩定期券月平均発売枚数 : 1か月あたりの各駅相互間の通勤・通学定期券の発売枚数

(1) 関係市町村の状況

① 総人口の推移〔年齢別〕



(出典)

- ・2000年以前 住民基本台帳人口・世帯数【北海道地域振興局町村課】
- ・2005年～2015年 振興局市区町村別年齢5歳階級別人口【北海道地域振興局町村課】
- ・2020年以降 日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)【国立社会保障・人口問題研究所】

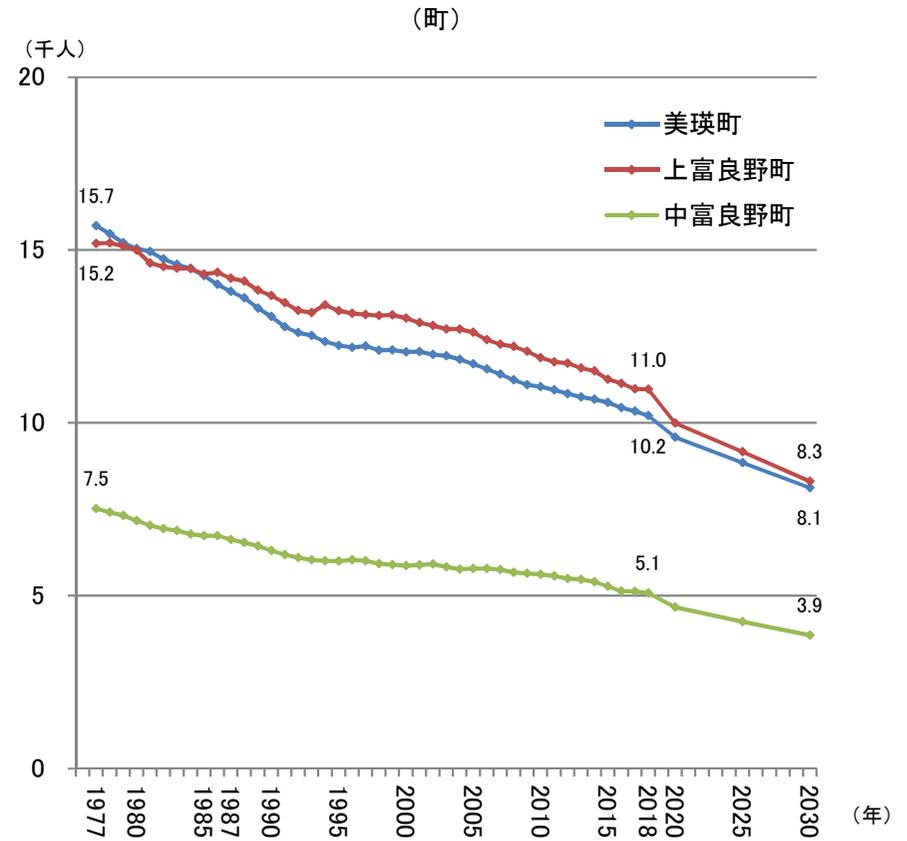
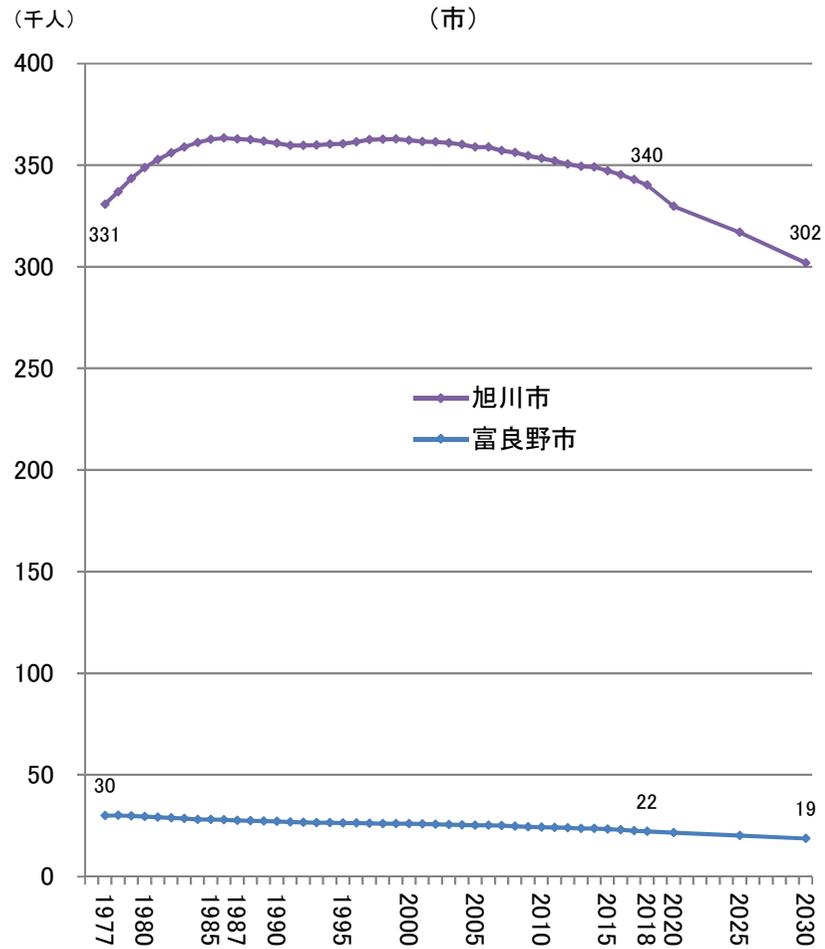
富良野線(富良野～旭川間)の関係市町村の総人口は、約38.9万人(2018年)である。

その推移をみると、全体的に減少傾向が続いており、JR北海道発足時(1987年)と比較すると、2018年で8.5%減少し、2030年(推計)では19.8%減少が見込まれる。

年齢別では、年齢別人口が公表された2002年と比較すると65歳以上が増加しており、2018年で52.2%増、2030年(推計)では64.3%増が見込まれている。一方で、通学定期の主な対象者である15～19歳は2018年で-28.5%、2030年(推計)では-46.8%と半減することが見込まれている。

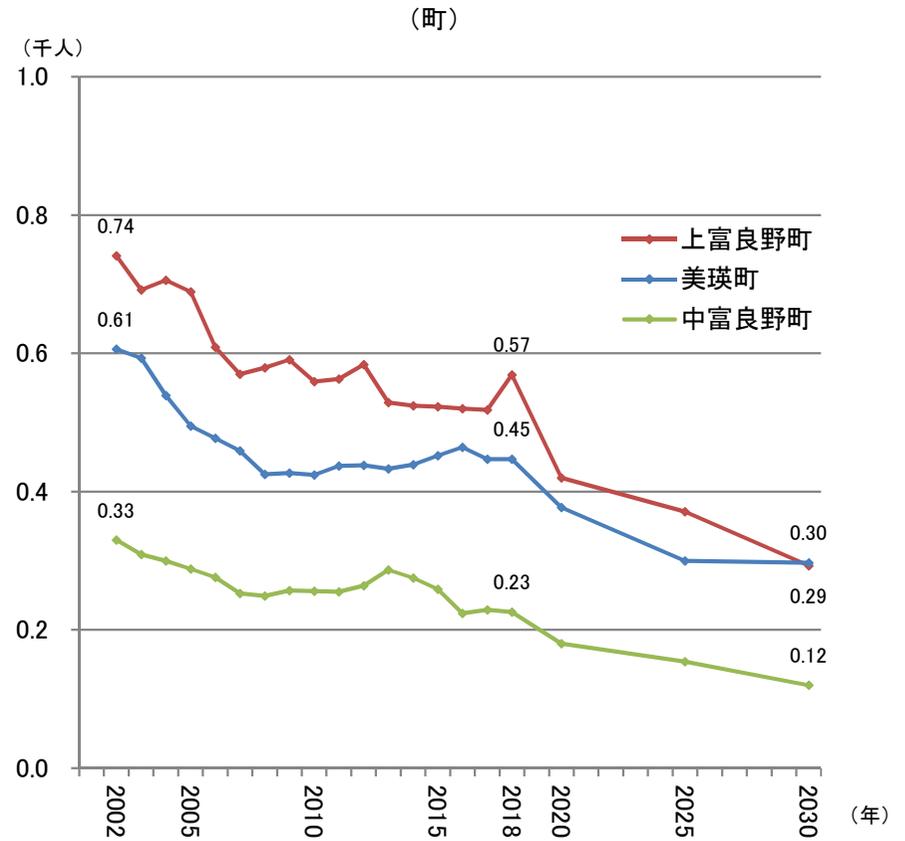
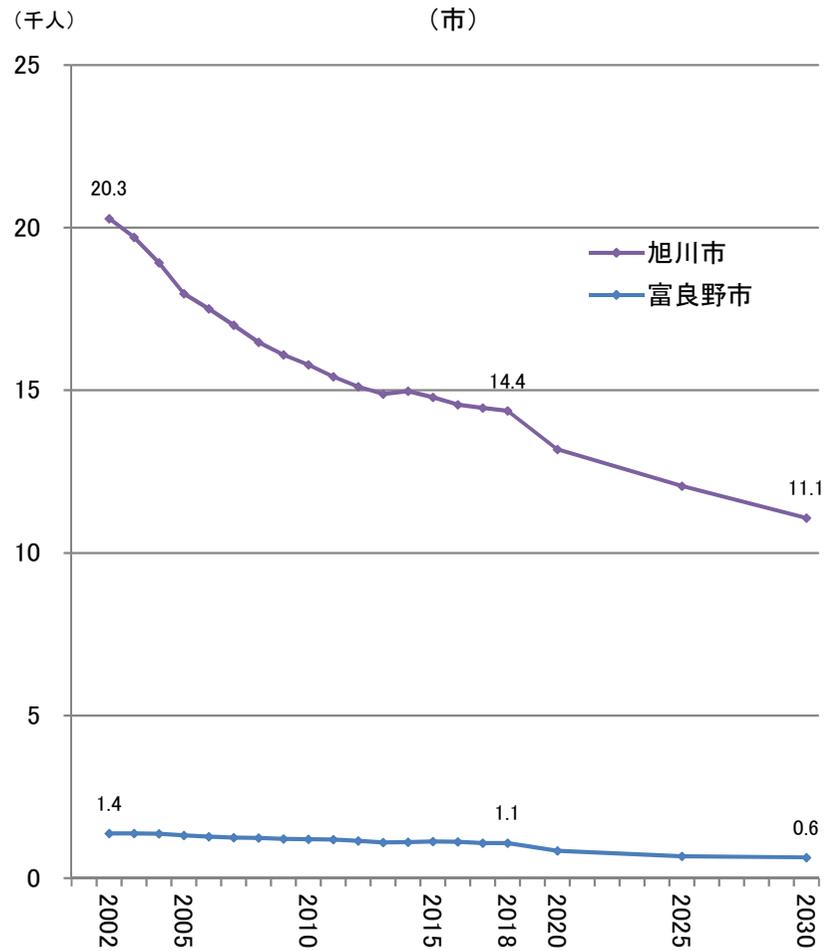
市町村別では全ての市町村で人口が減少しており、今後も減少が予測されている。減少率は、旭川市がもっとも緩やかである。15～19歳の人口は、各市町村とも大幅に減少しており、今後もさらに減少することが予測されている。

②市町村別人口の推移



(出典)
 ・2018年以前 住民基本台帳人口・世帯数【北海道地域振興局町村課】
 ・2020年以降 日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)【国立社会保障・人口問題研究所】

③市町村別通学年齢人口(15～19歳)の推移



(出典)
 ・2018年以前 振興局市区町村別年齢5歳階級別人口【北海道地域振興局町村課】
 ・2020年以降 日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)【国立社会保障・人口問題研究所】

②沿革

- ・富良野線富良野・旭川間は十勝線として建設され、段階的に開業しながら、1900年（明治33年）に全線が開業しました。
全線が開業して120年を経過しています。主な開業年と開業区間は右表となっています。

開業年	開業区間
1899(明治32)	旭川～上富良野
1900(明治33)	上富良野～下富良野(現富良野)

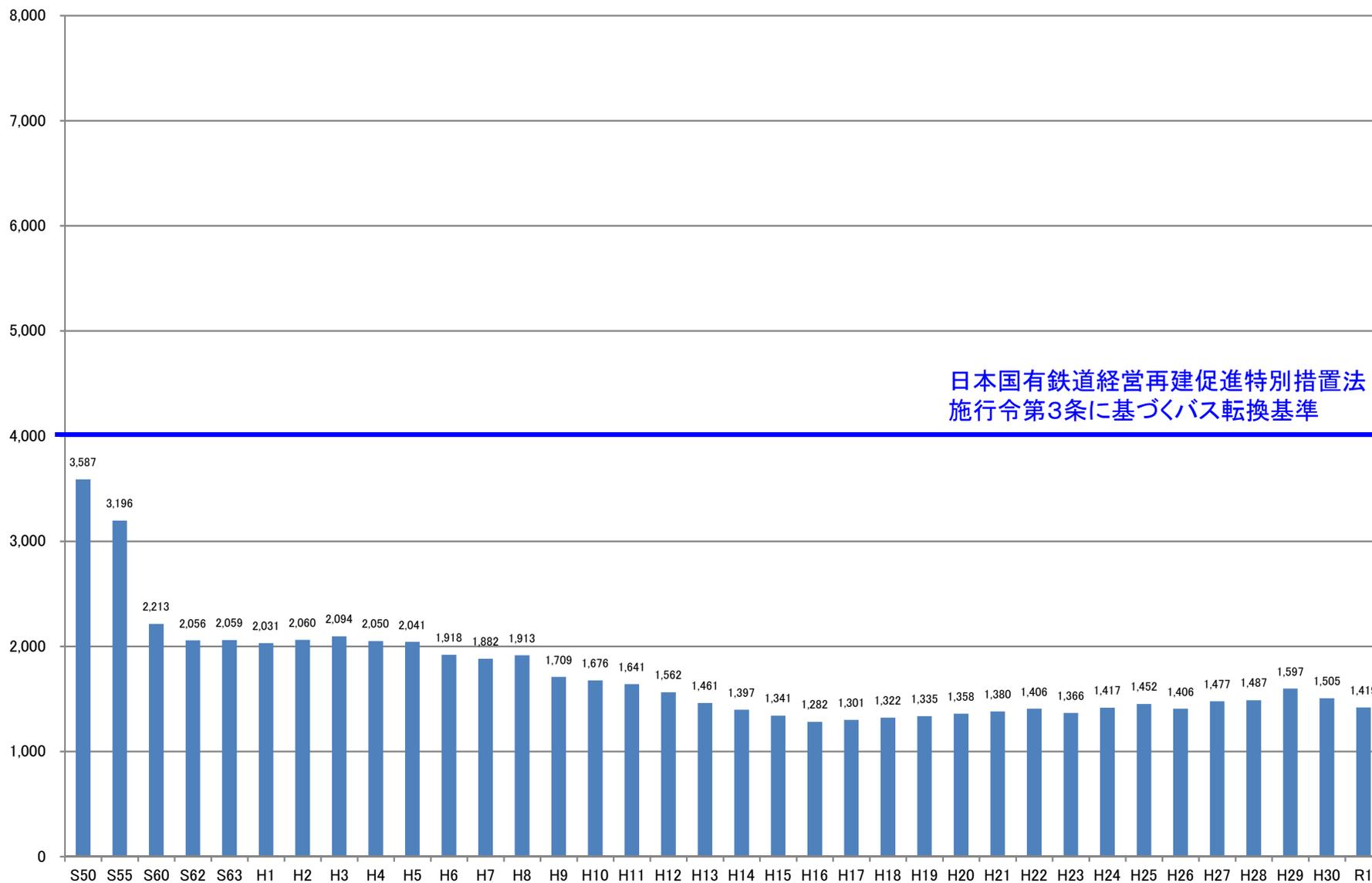
③諸元(2021年4月1日現在)

- ・区間 富良野～旭川
- ・営業キロ 54.8km
- ・列車本数 上下38本
- ・沿線自治体 富良野市、中富良野町、上富良野町、美瑛町、旭川市
- ・駅数 18駅（うち有人4駅）（うち臨時1駅）

④ご利用状況の推移(輸送密度の推移)

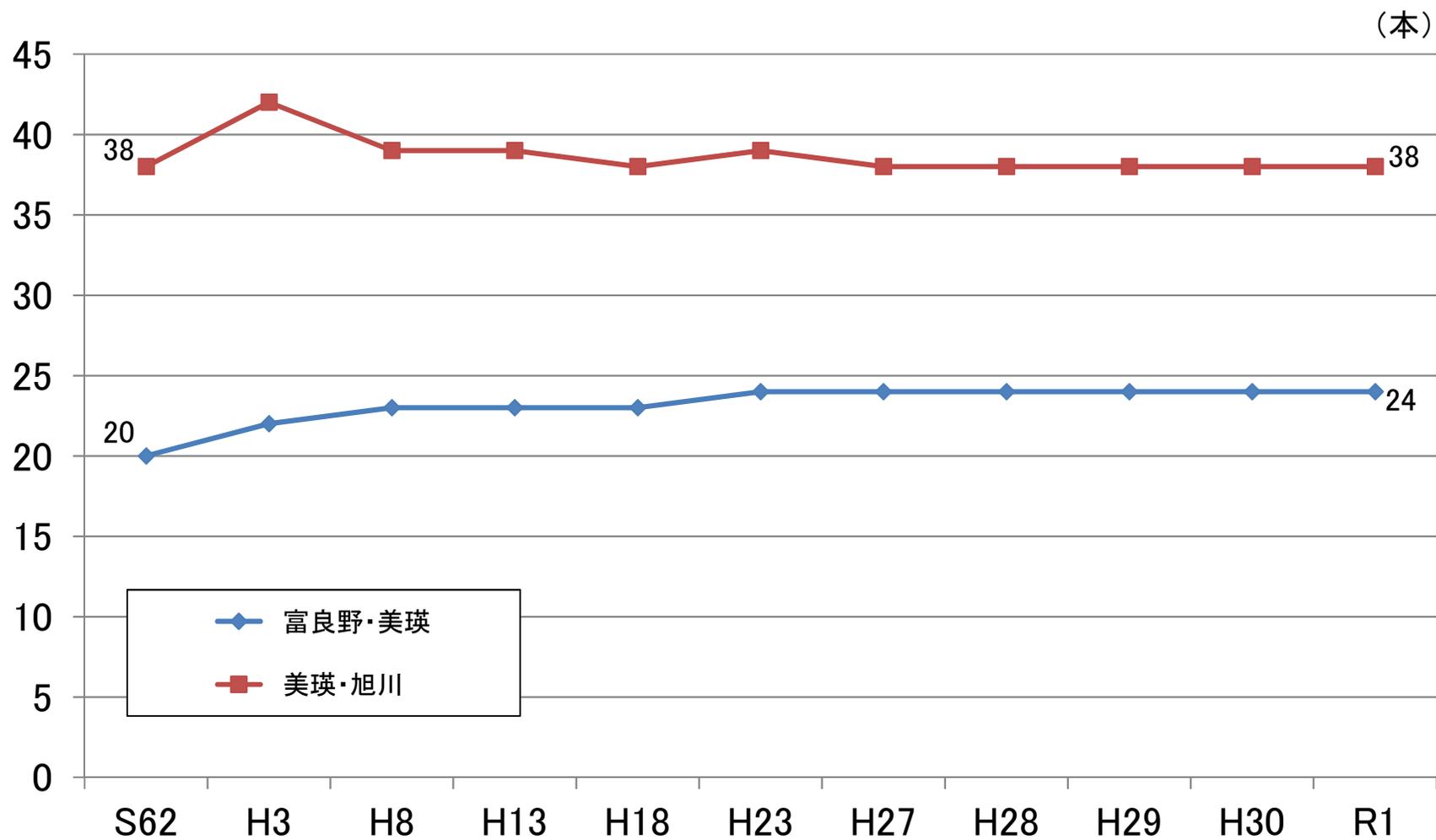
■富良野線(富良野・旭川間) (昭和50・55・60年度、昭和62年度～令和元年度)

(人/キロ/日)



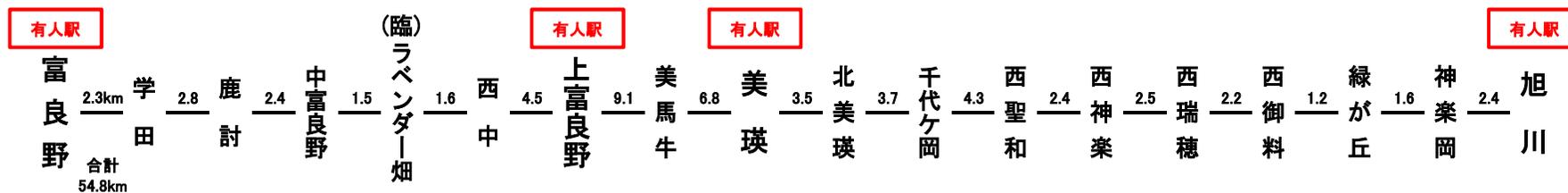
⑤定期列車本数の推移

■富良野線(富良野・旭川間)

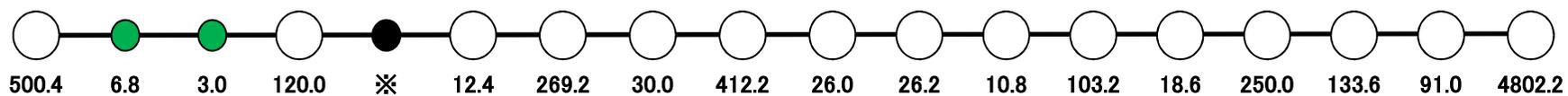


⑥ 駅別乗車人員

■ 富良野線(富良野・旭川間)



駅別乗車人員 (H27-R1の5年平均)



乗車人員 1日平均

- 1人以下
- 10人以下
- 10人超
- ※データなし (臨時駅のため)

⑦列車別乗車人員

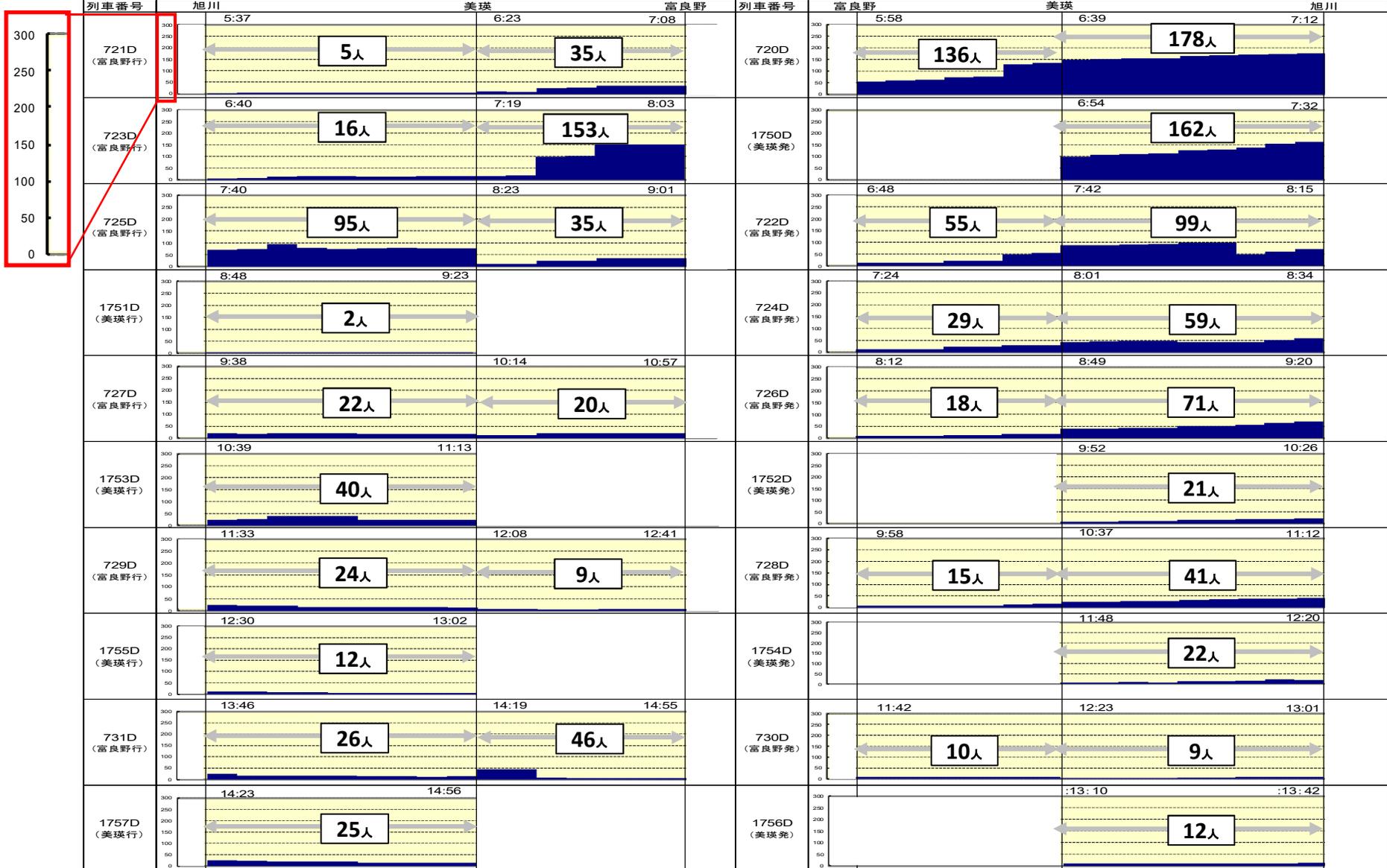
■富良野線(富良野・旭川間)①

人数は区間における最大乗車人員

◆下り列車(旭川⇒富良野)

◆上り列車(富良野⇒旭川)

(人)



⑦列車別乗車人員

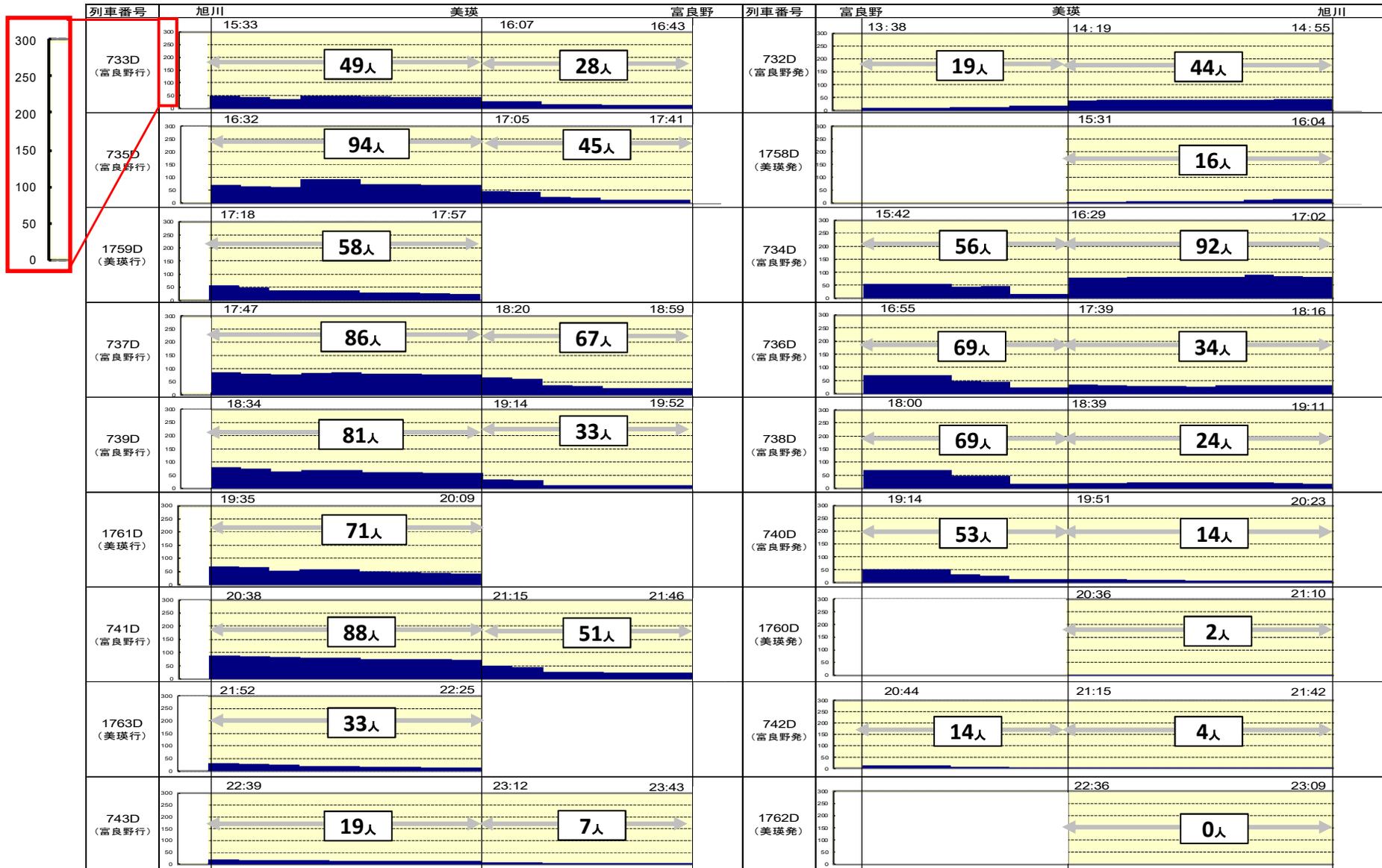
■富良野線(富良野・旭川間)②

人数は区間における最大乗車人員

◆下り列車 (旭川⇒富良野)

◆上り列車 (富良野⇒旭川)

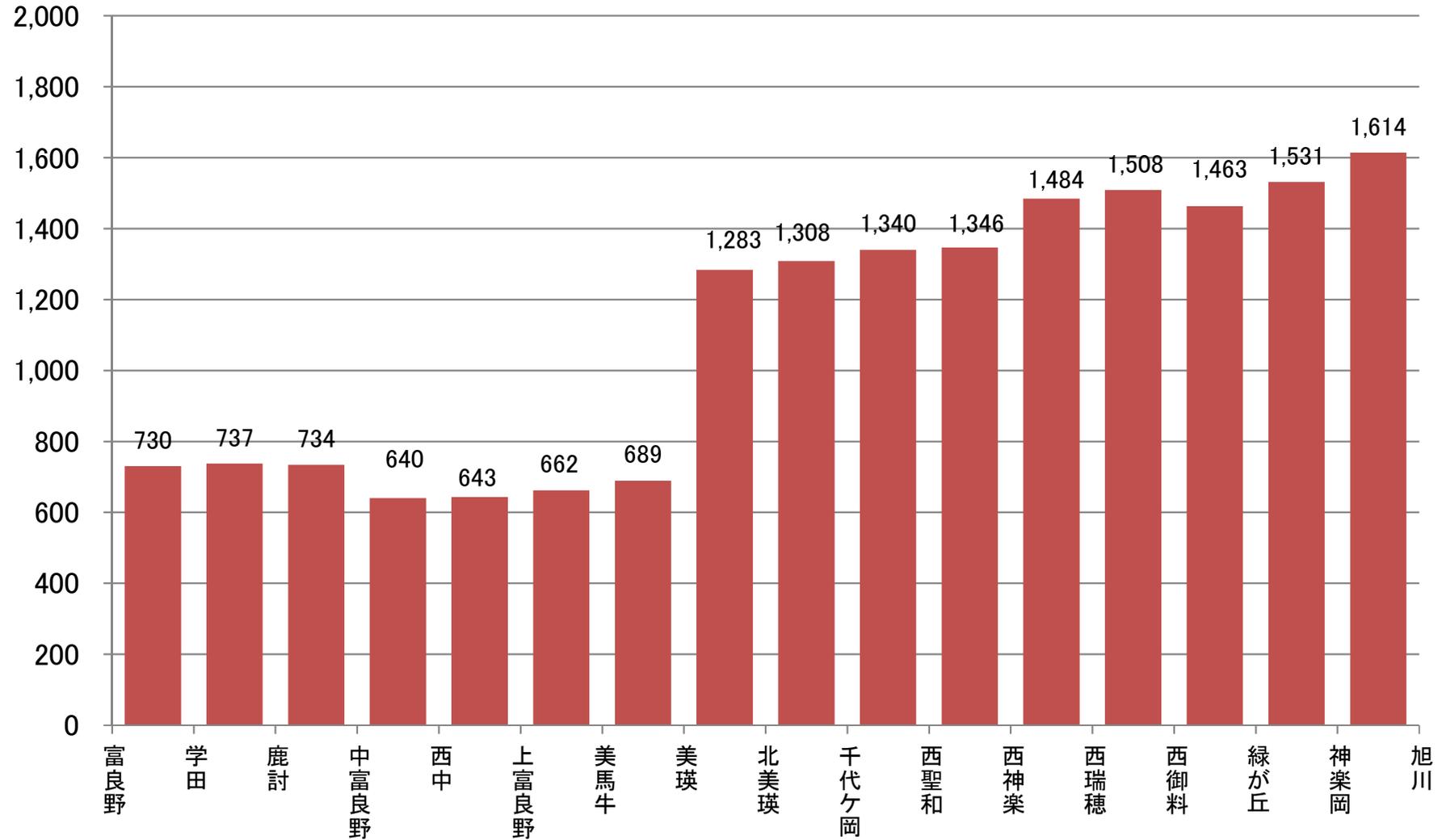
(人)



⑧ 駅間別乗車人員

■ 富良野線(富良野・旭川間)

(人)

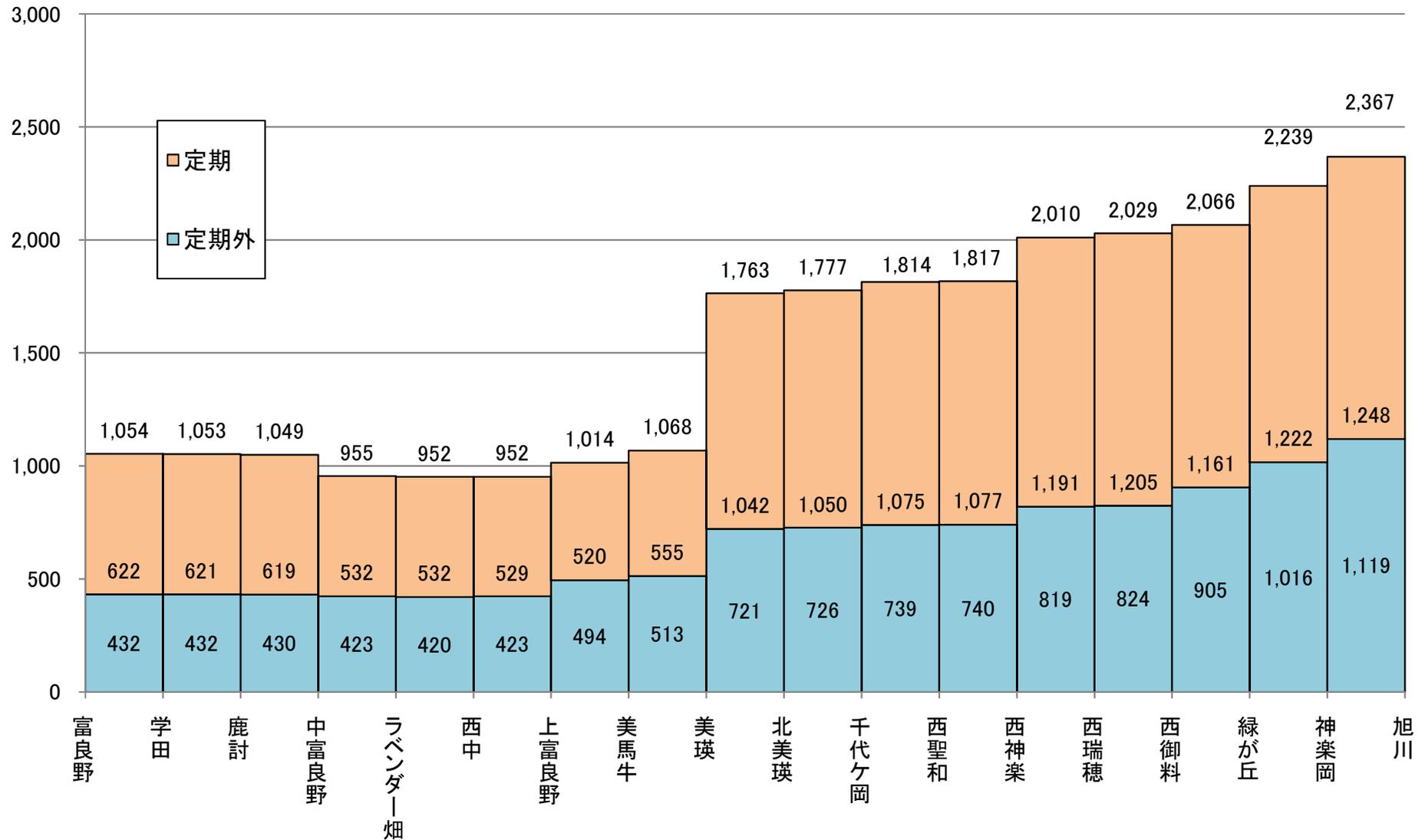


※ラベンダー畑駅は調査当日、営業期間外のため記載しておりません。

⑨ 駅間通過人員

■ 富良野線(富良野・旭川間)

(人)



※端数処理のため合計値が合わない場合があります。

⑩定期券発売枚数

■富良野線(富良野・旭川間)

(単位:枚)

	富良野	学田	鹿討	中富良野	西中	上富良野	美馬牛	美瑛	北美瑛	千代ヶ岡	西聖和	西神楽	西瑞穂	西御料	緑が丘	神楽岡	旭川	(線区外 旭川区 以遠)	合計
線区外 (富良野以遠)			0.9			3.4								0.8					5.1
富良野	0.3	0.3	59.4	5.1	100.8	1.8	9.8	1.8	1.1	1.8	0.8		4.9	0.4	1.0	74.4	3.3	267.1	
学田			12.8	1.7	6.2	0.1	2.1		0.3		1.8				1.3	0.7	12.3	0.3	39.2
鹿討																			
中富良野					5.0		1.0				0.8		2.8			15.6	1.7	26.8	
西中					1.1								0.3			0.4		1.8	
上富良野					1.0											1.0	0.4	1.4	
美馬牛							1.1	2.0	1.0				29.3	0.1	0.9	60.4	6.1	99.8	
美瑛								1.1	3.9				1.0	0.6	1.0	3.8		13.2	
北美瑛									1.8				6.5			7.7	2.7	18.6	
千代ヶ岡								0.1					2.0			2.0		2.1	
西聖和										0.6	2.4	1.0	46.9	17.3	2.8	128.5	26.9	226.4	
西神楽										1.0	0.1	0.8	1.1	2.6	1.0	30.5	0.8	37.9	
西瑞穂													1.0			3.8	0.9	5.7	
西御料													1.8			1.2		1.2	
緑が丘													1.8	0.3		2.8		4.6	
神楽岡													1.7			8.7	0.3	9.2	
旭川													1.7			2.0		3.7	
合計													6.8			0.6		0.6	
													6.8	0.8		20.3	4.1	31.1	
													1.0			30.8	2.2	33.8	
													1.0			0.9	1.1	8.0	
															0.3	17.2	40.3	57.8	
																24.7	0.9	25.6	
																12.6	15.8	28.3	
															1.0	20.3	4.2	25.5	
																2.3	4.3	6.5	
																12.8	3.3	16.1	
合計	0.3	1.2	59.4	5.1	110.3	1.8	14.6	2.8	1.1	2.4	4.1	1.0	102.3	17.8	5.0	351.3	105.9	786.3	
			12.8	1.7	7.3	1.2	6.1		0.3	1.0	3.7	0.8	3.4	5.5	4.7	154.3	12.9	215.4	

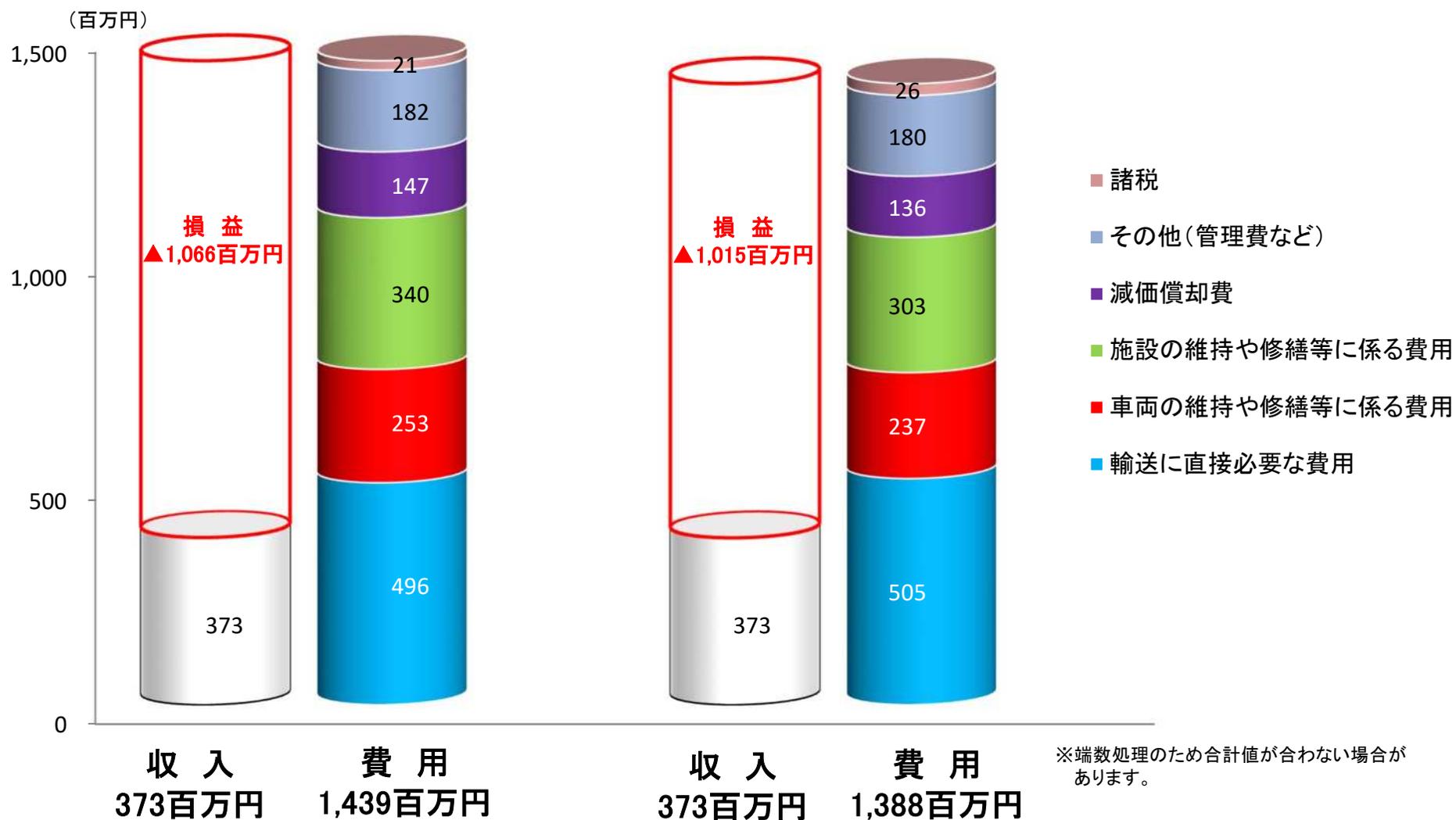
凡例: 通学定期券月平均発売枚数
 通勤定期券月平均発売枚数
 ※1ヶ月定期は1枚、3ヶ月定期は3枚、6ヶ月定期は6枚として集計
 ※経路は最も安価な経路で集計
 ※小数点第1位未満は四捨五入

⑪線別収支

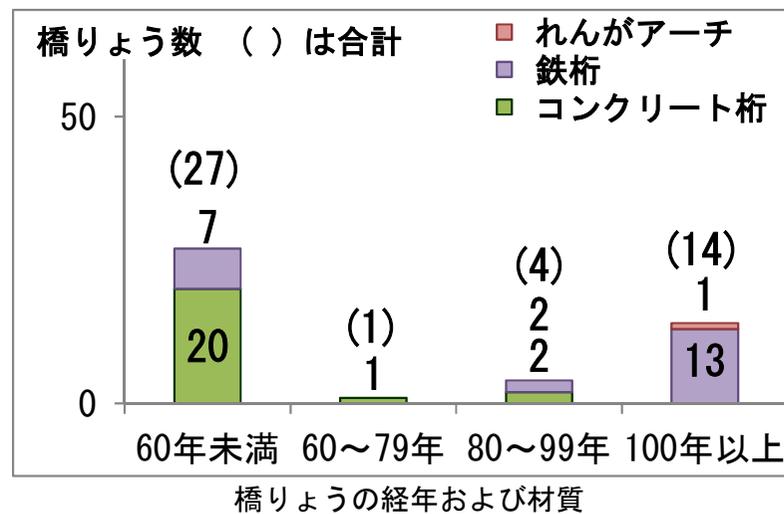
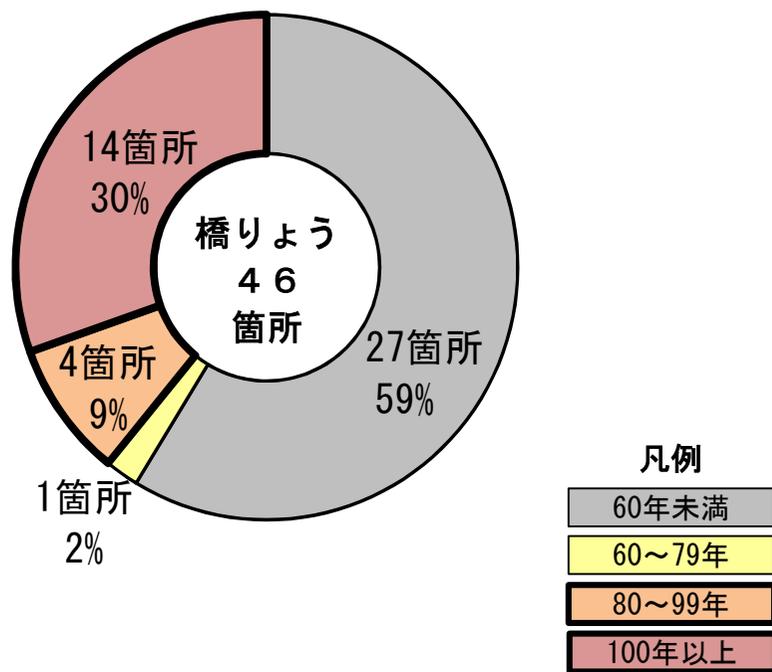
■富良野線(富良野・旭川間)

【平成30年度】

【令和元年度】



⑫土木構造物の現況、土木構造物の大規模修繕・更新費用



※平成29年1月現在

○ 橋りょう

【鋼橋の腐食対策】

富良野線 富良野・旭川間: 2億円

- 広範囲にわたって腐食が進むと、橋りょうの寿命が短くなる
- 経年の進行を踏まえ、鋼橋を永続的に使用するため、定期的な塗装の塗替えを実施



腐食が発生した橋りょう

(例: 根室線 東滝川・赤平間 第3空知川橋りょう)

【鋼橋の亀裂対策】

富良野線 富良野・旭川間: 1億円

- 経年が進むにつれて、桁に亀裂が発生することがある
- 亀裂発生を防ぐ予防的な措置として、亀裂の原因となる橋桁を支える台座部分(支承部)の不具合の修繕を事前に実施



亀裂が発生した橋りょう

(例: 石北線 丸瀬布・瀬戸瀬間 金山湧別川橋りょう)

■ 今後20年間で運営赤字とは別に必要となる土木構造物の大規模修繕・更新費用

富良野線 富良野・旭川間	設備概況		費用内訳(単位:億円)			
	種別	数量	項目	数量	費用	計
橋りょう	46橋	①鋼橋の腐食対策	22橋(34連)	2	3	
		②鋼橋の亀裂対策	7連	1		
経年進行に伴う恒常的な維持管理費用の増加				1	1	
計				4	4	

※ 金額は億円未満を四捨五入して表示しています。

⑬車両の更新費用

■今後20年間で運営赤字とは別に必要となる車両の更新費用

1 車両の現状及び更新の考え方

- ・ 全車両が更新時期を迎えるため、新製車両への更新が必要
- ・ 一般用の新製車両については、現在試作車を製作中である電気式気動車を想定

2 今後20年間の車両更新費用

1の考え方に基づき算出した今後20年間の車両更新費用は以下のとおりです。
なお、更新車両数は平成29年4月時点のダイヤを前提として算出しています。
また、観光列車用（ノロッコ号、SL等）の車両は含んでいません。

(単位:両、億円)

線 区	更新車両数	車両更新費用
富良野線(富良野～旭川間)	12	24

※ 金額は億円未満を四捨五入して表示しています。